

日本の家から見えてきたもの

今回、みみタロウは、日野町の旧家に嫁がれ、その伝統的な暮らしの中で紡いでこれたご自身の人生と日本の生活について綴られたエッセイ集、「At Home in Japan」を出版された音羽レベッカさんにお話を伺いました。



私はアメリカで幼少期を過ごした後、一家でオーストラリアに移住し、大学時代に留学生として来日しました。そして知り合った日本人の夫と結婚したことが、ここでの生活への入り口となりました。

初めて日野町音羽の地を訪れたとき、ある種の運命のようなものを感じてここに住んできました。だから私の経験は非常に特殊で、他の人にお勧めできるようなものではありません。こうして1600年来続いている古い農家に嫁ぐことになったわけですが、同じ場所に昔から住み続けている家族の一員になるということは、ある意味すごく難しかったです。ある意味誇りを持っているし、とても複雑です。実際、日本の古い家に入ることの大変さは想像以上のものでした。でもだからといって、やめようと思ったことはありません。それは、アメリカやオーストラリアでは味わったことのない、生活のそれ自体が持つ深い意味や、ルーツを持つ家の重みに惹かれたからかもしれません。そして、私がここに根を降ろすことができたのは、それまでどこにも根を張って暮らすことがなく、過去の生活から引っぱられるものもなかったからかもしれません。

もちろん最初、日本の暮らしのことは何もわからず、全て義母から無我夢中で教わりました。新しい生活の中でいるんな誤解もありましたし、誤解されもして、社会のルールがうまく受け入れられないこともありました。家族からは「早く日本のお嫁さんになってほしい」「外国人だからこそ、きっちりしないと」と望まれる中、他の人と比べることもなく、たった一人で頑張る生活を送ってきました。そうして時を経て、私はだんだん日本人に近づいていき、反対に、周りの日本人のお嫁さん達は西洋化して行って、いつしか私は日本人以上に日本的になっていました。夫の好きな言葉に「せっかく」という言葉がありますが、この家の長い歴史の中でせっかく続いてきた暮らしを私がやめてしまうわけにはいかないんですね。年末のお餅つきも寒くて大変な作業ですが、やはり杵でつくると、機械で作るものと生地が違って格段においしいのですよ。結婚して30年。今、私はこの地に根を張っていて、とても安らぎのある生活を送っています。そしてこれまでの自分に感謝しています。

来日当初に比べ、日本での生活は飛躍的に快適になりました。道路には英語表記ができ、駅のトイレなど様変わりしてきれいになりました。しかし一方、失ったものも沢山あります。現在、あらゆる分野でデジタル化が進み、この新しい文化基盤に支えられています。しかしこれは人間にとって不安定なものなので、人が手を使って作る文化とその誇りを失うことがないよう、リアルな文化も大切に伝えていかなければいけないと考えています。特にこの国には貴重な工芸の伝統文化があり、それが失われることが大変気がかりです。私の住んでいる家は手で造られたもので、コンピュータには出せない独特の味わいがあります。家の維持には少なくない手間暇と修理代がかかりますが、私はこの家に住むことで古い物の大切さを知りました。何百年も年を重ねたこの家には、あたかも人格があり、生きていくように感じられることもあります。人の手によって造られた家を大切に維持していくと、ある時から関係が逆転し、家は人を支えてくれる存在になって、今では、私と家とはお互い支え合う関係にあるのですよ。このような大切な古き良き物を維持するためには、瓦葺きや畳の技術など、同様に古い伝統技術も必要となってきます。しかし正に今、様々な日本の工芸文化は継承の危機に瀕していて、そのことが残念でなりません。農業も同じです。若い世代は農業に価値を見いださなくなっていて、一緒に畑仕事をしている世代は、おばあちゃんばかりになっています。土地を耕せなくなったお年寄りや土地のことを我が子のように心配しています。作物を作ることは大変だけど、どこで採れた物かわかっている物を食べられることは恵まれたこと。その喜びを多くの人に知ってほしいです。農作業は人も結びつけてくれていて、地元のお寺の集まりでは、タマネギを植える時期など畑の話で盛り上がるんです。私は若い国から来たからこそ古い物の良さに惹かれたのかもしれませんが、手を使って暮らし、土地に種をまき、地に足をつけて生活することで心が落ち着きます。

しかし、どんなに日本に慣れ、日本語ができるようになって、外国人でいることには常にある種の緊張感が伴うものです。時々自分の文化に触れたり、同じ文化の人と話したりして、リラックスすることも大切ですね。私の場合、「外国人妻の会」が本音を出せる大切な場所でしたし、英語のビデオが見られるようになるのと、とても楽になりました。どうかみなさん、自分を大切にしながら、この日本での毎日の生活を楽しんでください。